

〈巻頭によせて〉

善と正義は我とともにあり

静岡大学法科大学院教授 大江 泰一郎

静岡大学法科大学院の玄関にブロンズのプレートで、「善と正義は我とともにあり」という標語が掲げてあります。法曹をめざす法科大学院生に、日頃から高い志をもて、と励ます意味で作った銘板ですが、この標語の精神は法律学あるいは政治学を学ぶ学部生にも通ずるところがある、と私は考えています。

この言葉（原文ギリシア語）はもともと古代ギリシアの悲劇詩人エウリピデスが残した断片に由来するのですが、現在ではローマの皇帝マルクス・アウレリウスの『自省録』に記されたものとして広く知られるようになっていきます。その意味はこうです。「善」とは善いことを行動の目標として選ぶこと、言い換えれば悪には加担しないことを意味します。「正義」はここでは、その善を実現するための方法ないし手続を意味するものと考えてよいでしょう。目的は善くても、それを実現する方法が不正ではない

けない。正義（ト・デイカイオン）は英語では Justice と訳されます。各人は自分の思うところを正々堂々と主張し争うが、最終的な判断は神あるいは神に代わりうる主体にゆだねる、という訴訟の手続がそこに含意されていることになります。神をもちだす必要がなくなった現代でも、訴訟の場では、裁判官が法服をまとい、一種の神聖さなしい厳肅さがかもじだされる必要があるのも、理由のないことではないでしょう。人文学部はもともと Faculty of Humanities であって、つまりヒューマニズム（古典を学びそれを生活に生かすこと）を原点とする、高邁な理想を目指す学部です。法学科に学ぶ諸君も、日頃の学生生活のなかで、ぜひ「私は善と正義を担って生きていくのだ」という自負と誇りをもって、学修に励んでほしいと、私は考えています。